



生きものしらべの対象「チョウ」

【チョウを調査の対象とした背景】

チョウは、幼虫は特定の植物に付き、成虫も花の蜜や樹液などを必要とするため、地域の自然環境の状態を表す代表的な生きものです。いろいろな生きものの捕食対象となり、幼虫とアリと密接な関係や、成虫による花粉運びなど、地域の生態系を保つ欠かせない存在となっています。

チョウには様々な種が確認されており、羽の模様や色、飛ぶ場所などの違いがあり、住宅地や工場内の緑地、公園などでも、いろいろな種を見かけることもあります。

このページでは、春の時期に川崎市内で身近に確認しやすい在来種のチョウの一部を紹介しています。近くの公園や川などの身近な自然でどんなチョウが見られて、数や種類が昔と比べてどう変わってきているのかについて、みんなで考えてみませんか？

市内の**草地**
で見かけやすいチョウ

キアゲハ



2016年4月宮前区初山周辺

ナミアゲハ



2015年8月麻生区はるひ野周辺

スジグロシロチョウ



2016年6月麻生区黒川周辺

ベニシジミ



2016年4月
麻生区岡上周辺

2016年4月
宮前区初山周辺

モンシロチョウ



2015年6月麻生区古沢周辺

ツマグロヒョウモン

オス

メス



2015年10月多摩区菅稲田堤周辺

2015年9月多摩区枳形周辺

チョウの観察のポイント

- ・チョウはおだやかな晴天で風がないあるいは風の弱い日が向いています。
- ・チョウの成虫、幼虫によってエサが異なり、見かけやすい場所に特徴があります。（例えば、キアゲハはセリ科の植物の葉、ナミアゲハはミカン科の植物の葉、アオスジアゲハはクスノキ科の植物の葉など、種によって幼虫のエサが異なります。）
- ・木の上の高いところを飛ぶものなど飛ぶ場所にも特徴があります。
図鑑などで、あらかじめチョウのエサや生態などを調べておきましょう。

季節型

- ・チョウは、羽化する時季によって、春型や夏型などがあり、同じ種類でも大きさや色、模様などが異なる種があります。
- ・季節の変化がはっきり現れる地域で多く起こり、南西諸島のような年中温暖な地域では起こらないといわれています。



アオスジアゲハ



イチモンジセセリ



ムラサキシジミ



サトキマダラヒカゲ



ダイミョウセセリ



掲載している写真は、かわさき生き物マップに投稿いただいたものです。（投稿者：ペンネーム gamera さん、しずくさん）